

## 会議録（要点録）

会 議 名	第8回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会
日 時	令和元年（2019年）7月24日（水）午後7時00分～8時30分
場 所	八王子市役所 本庁舎 801会議室
出席者氏名	参 加 者 ◎和田孝、○高橋洋、関口眞吾、中原教智、新庄良輔、 真喜志尚子、石渡ひかる、野牧宏治  ◎：座長 ○：副座長
	教育委員会 事務局職員 設樂恵 学校教育部長、斉藤郁央 学校教育指導担当部長、 小山等 生涯学習スポーツ部長、佐藤宏 図書館部長、 橋本盛重 学校教育政策課長、野村洋介 学校教育統括指導主事、 安達和之 生涯学習政策課長、太田浩市 中央図書館長、 田倉洋一 保健給食課長、山田光 教育支援課長、大日向由紀子 指導課長、 上野和広 学校教育統括指導主事、新納泰隆 生涯学習センター図書館長、 中村東洋治 南大沢図書館長
	事 務 局 三枝信博 学校教育政策課主査、持田勝 学校教育政策課主査、 上島加奈子 学校教育政策課主事
欠 席 者	香取武雄
次 第	1 開会 2 議題 今後10年間を通じてめざす教育の姿「1 はちおうじっ子の『生きる力』の育成」の各施策について 3 その他 4 閉会
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 数	なし
配 付 資 料 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第7回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会会議録</li> <li>・ 次第</li> <li>・ 資料1 今後5年間に取り組む施策（施策番号1～15）</li> <li>・ 資料2 指標一覧</li> </ul>

	会議の内容
	<b>1 開会</b>
座長	第8回策定検討会を開始する。 今回は「今後10年間を通じてめざす教育の姿「1はちおうじっ子の『生きる力』の育成」について、事務局の説明後に意見をいただく。
	<b>2 議題「今後10年間を通じてめざす教育の姿『1 はちおうじっ子の「生きる力」の育成』について」</b>
事務局	資料1～2について説明。
座長	事務局から説明があった施策案に対して、参加者の皆さんから意見を聴きたい。まずは、先ほど説明があったことについて、不明な点など、質問があれば受け付けるがいかがか。
参加者	1点確認だが、今後10年間を通じてめざす施策展開の方向「1 確かな学力の育成」の指標は2つ、「2 豊かな心の育成」は4つあるが、一方で、「5 円滑で継続性・連続性のある教育の推進」や「6 夢や志をもち挑戦する力を育む教育の推進」においては、指標が1つである。施策展開の方向ごとに掲げる指標の数が異なっているが、この指標だけで施策の進捗状況を評価していくのか。
事務局	第3次計画では、13ある「今後10年間を通じてめざす施策展開の方向」ごとに最低1つ以上の指標を設定したいと考えている。今回は案であるため、各施策展開の方向の指標としてふさわしいか、また、指標の数などが適当であるかなども含めて御意見を賜りたい。
座長	各施策の提案に対して、「もっとこのようにした方がよいのではないか」というように、各自で提言や助言を述べていただきたい。今回は施策数が15もあるため、特に関心のある施策について発言していただければと思う。
参加者	施策案「1 基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上」について、全体的に補習や基礎・基本の定着など、ベースラインを引き上げするというような主旨の施策が大勢を占めているようである。しかしながら、めざす教育の姿として「はちおうじっ子の『生きる力』の育成」を考慮すると、子どもたち一人一人が本来持っている能力や資質をより伸ばしていくという視点も必要ではないかと思う。 「施策の方向」の一つに「児童・生徒一人一人の個に応じた指導の充実」という方向があるが、その個に応じた内容の範囲をもっと上に広げて、一人一人の子どもの可能性を伸ばしていけるような施策を盛り込んでほしい。
参加者	施策案「1 基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上」について、「八王子ベーシック・ドリルの拡充及び活用」とあるが、すでに活用が進んでいる「東京ベーシック・ドリル」に足りない範囲を八王子版に盛り込んで、活用していくほうが効率的ではないか。
参加者	今後5年間に取り組む施策案「3 いじめ防止対策の推進」について、ぜひお願いしたい。今年度から各学校で「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」を実施しており、これは、クラス内での子ども一人一人の人間関係や置かれている状況が非常によくわかる調査である。第3次計画以降、いじめ防止対策について重点的

	<p>に取り組んでいくのであるならば、具体的な取組に「Q-Uの活用」を盛り込み、担任の教員がその結果を参考にクラスづくりや子どもたちの状況改善に役立てていくよう取り組むことができると、いじめ防止につなげることができると思う。</p> <p>また、施策案「9 登校支援の充実」について、指標に掲げている「不登校児童・生徒のうち、スクールソーシャルワーカーによる継続支援児童・生徒の割合」で現状値が18・3%であることから、スクールソーシャルワーカーが足りていないことがわかる。</p> <p>本市の小・中学生では、ある一定数の不登校児童・生徒がいる。各学校では当該家庭への支援を頑張っているが、保護者や子どもへの専門的な知見での働きかけや登校支援は必要である。今後10年、社会は益々不安定になるとスクールソーシャルワーカーの専門的な知見により支援が必要な子どもの数は増える予想される。人員の増員を施策に反映していく必要があると思う。</p>
参加者	<p>施策案「6 食育の推進」について、現状、約1割の子どもが朝食を食べずに登校しているようである。保育園でも朝食を食べさせてこない保護者がいる状況である。入園時の説明会で朝食を食べさせるようお願いをしても、理解を得られない。</p> <p>施策案には朝食を食べてこない子どもをゼロにするための具体的な取組が明記されていないようである。ぜひ、取組に盛り込んでほしいと思う。</p>
参加者	<p>施策案「6 食育の推進」の「施策の方向」について、小・中学校（義務教育）9年間で「自分でお弁当を作ることができる子ども」の育成を目指すことは良い目標であると思う。しかし、食事を作らない家庭においては、給食がない夏休み期間中などは大変な状況にある子どもがいるのだろう。長期休業中などに、学校の家庭科室を活用して、地域の方との連携で誰にでも出来るようなおかずづくりの教室を開催できたらよいのではないかと思う。日頃から、料理することや食事に対する関心を高める取組を進めてほしい。</p>
参加者	<p>2名の参加者からの意見に対しての取組として、施策案にも記してあるように、親子向けの食育教室や給食センターを活用した取組を家庭や地域へ情報提供するなどの啓発活動の拡大が重要となってくるであろう。</p>
参加者	<p>子どもは身体が資本ではあるが、近頃、教員や保護者の間で顔面に傷を負っている子どもが減らないよねという話題になった。施策案「7 体力向上に向けた取組の推進」では、オリンピック・パラリンピックに関連した取組などが充実しているようだが、子どもたちがどういった理由で保健室を利用しているのか、医療機関にかかっているのかということが見えるとよい。子どもたちがけがや事故から自身を守れるようにするために必要な基礎的運動能力を具体的な指標で測れないのか。体力テストの結果とは別の角度でも測れるとよいと感じる。</p>
参加者	<p>質問であるが、施策案「15 職業観・勤労観を育成する教育の推進」の施策の方向の中で、「職場体験の充実を図る」とあるが、現状、職場体験先の企業や事業所を学校で探すことになっているのだろうか。学校によっては、体験先の事業所が限られたり先方に断られたりしているようだ。教育委員会から事業所の斡旋や事業所との調整の支援をしてもらえるのだろうか。例えば、農業体験をしたいと思っても、学校では、農業関係者の知り合いがなく体験ができない。充実が図られるととてもよいことだと思う。</p>
事務局	<p>職場体験は全市立中学校の2年生が実施している。教育委員会では、全学校の職場体験先の情報を5月から6月に、年間900か所の事業所を紹介している。各学校はそこから近隣の事業所を選択し、各事業所との交渉を学校が行っている。</p>

事務局	<p>市の施設や関連機関での職場体験も実施しており、選択の幅や事業所数の充実を図っている。しかしながら、近隣に事業所が少ない地域もあるため、調整に苦労している学校もあるので、教育委員会では学校と協力しながら体験先の事業所を拡充する努力をしているところである。</p>
参加者	<p>施策案「10 帰国・外国人児童生徒への日本語指導の充実」について、現在、地域にある小学校には、インドやペルー、フランス、モンゴルなど、外国にルーツがある児童がいる。保護者が外国籍の方の場合、言語による意思疎通が難しいことがある。教育委員会で、通訳や日本語指導者等の派遣を促進してほしい。</p> <p>特に、外国人の方のごみの出し方などで地域住民とのトラブルがあると、その子どもへ影響が大きい。学校を通じて、まずは外国籍の保護者へ向けて、制度の周知や啓発を充実させ、多文化共生を推進し、全ての子どもたちが楽しく学校生活を送れるようにしてほしい。</p>
事務局	<p>学校現場だけでなく、市全体で外国籍の市民の方の割合が増えている状況である。市では、多言語対応をはじめとした取組など、外国籍の方への支援を進めているところである。</p> <p>教育委員会では、今年度から、学校が外国籍の保護者とのコミュニケーションを円滑に行えるよう、74 か国語に対応した同時通訳デバイス機器を導入し、必要に応じて学校への貸し出しを開始した。また、生活習慣や文化の違いへの理解や対応も市全体で取組を進めていく方向である。</p>
参加者	<p>先日、東京都の青少年健全推進会議でも外国籍の子どもについて話題になった。新宿区では、全体の 43%の子どもが外国籍であるとのこと。保護者と近隣住民とのトラブルが多くて大変な状況のようだ。本市では外国籍の子どもの割合がまだ1%程度だと思うので、早めの対応をすべきである。</p>
参加者	<p>施策が分かれてしまっているが、「はちおうじっ子」の中には、帰国・外国人児童生徒も含んでいると捉え、多文化共生を理解し、外国籍の子どもたちも十分に自分の能力を發揮できるように取組を進めていく必要があると思う。</p>
参加者	<p>施策案「6 食育の推進」について、来年度から中学校では、センター方式による給食の提供が始まる。給食センターでは、宗教上やアレルギーなどにより食べられない食材がある場合、特別メニューを提供するのか。</p> <p>また、未納分の給食費を教員が集金している現状に問題があると思う。教員の働き方改革に関わってくるため、市で回収していくようにしてほしい。</p>
事務局	<p>給食の宗教上への対応は難しいため、基本的には弁当持参となる。アレルギーへの対応については、7大アレルゲンを持っている子どもへは除去食を提供する予定。ただし、7大アレルゲンの小麦は主食になりうるので、除去食ではなく、ご飯に代えて提供する。</p> <p>未納分の給食費の集金が、学校の負担になっていることは承知している。現在、弁護士の活用や児童手当の充当を検討している。</p>
参加者	<p>未納分の給食費の集金について、取り掛かりの部分は学校がやるしかないのかなとも思う。まずは、担任が交渉し、ダメな場合には副校長。手に負えない場合や金額が高額な場合などには、弁護士などの専門家にお問い合わせするといったように、段階を踏んだうえで行った方が良い場合もある。学校と保護者との信頼関係もあるので、いきなり外部の方に丸投げせず、学校がやるべき段階もあると思う。</p>

参加者	知らない人が突然「払ってくれ」と来るよりも、教員が訪問してくれた方が信頼感があるのだが、本来の教員の仕事ではないと思う。
参加者	<p>施策案「1 基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上」の施策の方向で、「学力向上に関するPDCAサイクルを確立」とあるが、学力向上のためのPDCAサイクルから、宿題を明確に除いてもらいたい。宿題に頼ったPDCAサイクルからの脱却をしてほしい。</p> <p>現在の施策に宿題をはめ込んでいるとは思わないのだが、学校現場では宿題を学力向上のサイクルに取り入れている。多くの子どもが無理やり宿題をやらされている感をもっていると思う。その連続が積み重なることで、大人になったときに仕事に対してもやらされている感をもったままになってしまうおそれがある。家庭学習と宿題は違うはず。授業時間内でできなかった分を家庭でやらせるのではなく、家庭学習は主体的に取り組むものであると思う。</p>
座長	現在学校では、宿題を通して家庭学習の定着を図るものとして重要なことだと捉えているので家庭学習の手段として位置付けていると思うが、無くしてしまってもいいのか。
参加者	家庭学習は、自分に足りないところや、興味のあることを主体的に取り組むべきであるため、宿題のようにやりなさいと言われて行うものではない。
参加者	宿題といえば、地域の小学校では放課後学習の一環で、授業を理解できていない外国人の子どもに対して、ほかの子どもたちが自発的にランドセルを机代わりにして勉強を教え合っている。子ども同士の交流が図られていてとても良い状況なので、宿題がこのように活かされるのであれば、宿題は残したい取組である。
参加者	小学校では、学力の向上と家庭での学習習慣の定着という2つを大きな柱に、教員は子どもに宿題という形で課題を課している。例えば、九九は小学2年生の時期に確実に徹底的に覚えさせないといけない。また、漢字もタイムリーな時期に読み書きできるようにすることが必要である。家庭学習には必要な時にすべきことと、自分で調べて探求していく2通りある。子どもが家で勉強することは、保護者にとっても嬉しいことのはずである。そのきっかけや動機付けを与えるのは義務教育の大きな役割であると思う。
事務局	<p>元々このPDCAサイクルの概念に宿題は入っていない。各学力調査の結果を基に、子ども一人一人が何ができて、何が足りないのかを学校が把握して、授業や指導方法を工夫して、改善していくためのものである。家庭学習にスポットを当てているわけではない。</p> <p>小学校低学年では、どうしても覚えなければいけないことが多いことから、45分間の授業の中では完結できないお子さんもいるため、学校だけでなく家庭でも学習する必要がある。また、ある程度周囲の大人から言われないと学習をしない子どももいたり、宿題を課すことを望む家庭もあつたりすることから、計画上で「宿題を出さない」と明記することは難しい。</p>
事務局	先ほどの参加者のご意見は、やらされている感が残るだけのような宿題の出し方は避けたいということであると思う。様々な状況の子どもに対して、それぞれが主体的に取り組めるよう対応していくのは、教員の腕の見せ所であると思う。
参加者	地域の小・中学校で、放課後に宿題や自主的に勉強する子どもを見守る取組にボランティアで参加している。そこでは、子どもたちが自分がしたいことを主体的に

	<p>取り組んでいる。宿題をささっと終らせて帰る子どももいれば、宿題をゆっくりやっている子どももいる。学力の定着が足りない子どもに対して宿題を課すことには賛成である。</p> <p>また、学力が小学4年生のレベルに達していない中学生がいることも問題である。市で基礎的レベルの問題集などを作ってもらえれば学校が活用しやすいのではないかと。それを学力の向上につなげられるのではないかと。</p>
事務局	<p>「八王子ベーシック・ドリル」は、小中一貫教育推進委員会の学力向上推進委員会の国語、算数・数学部会で、市立小・中学校の教員が学力調査の結果を分析して、市の子どもに不足している点を考慮して作成している。市における学校や子どものニーズを取り入れているため、「東京ベーシック・ドリル」も当然活用するが、本市の実態に沿って、学校でより効果的に活用できるものにしていきたい。</p>
事務局	<p>「八王子ベーシック・ドリル」は市の教員が作っている点がポイントで、八王子の子どもたちの実態を踏まえて作成している。「東京ベーシック・ドリル」は広い範囲を網羅しているので、2つを組み合わせると効果的だと考える。</p> <p>「八王子ベーシック・ドリル」を充実させていくことで、子どもたちの苦手な範囲をより改善していくことにつながると考えている。</p>
参加者	<p>「東京ベーシック・ドリル」はとても充実しており、八王子版では、足りない部分を補っていただけると良いと思う。</p>
事務局	<p>「八王子ベーシック・ドリル」は、教員が授業で活用できるように作成している。最近は家庭でも活用したいという声が多いので、進化させていく必要がある。(斉藤)</p>
参加者	<p>ホームページで「八王子ベーシック・ドリル」を検索すると、全てのシートが羅列され、どのシートがどのくらいのレベルの問題なのかが分かりづらい。学年指定をするなど、見出しの工夫を分かりやすくしてほしい。</p>
事務局	<p>特別支援学級の子どもたちにも活用できるように対応しているので、学年を明確にしづらいという問題がある。</p>
参加者	<p>いきなり難しい問題から表示されるので、優しいレベルの問題から表示していく方がよいと思う。</p>
参加者	<p>指標について、全38施策で掲げたほうが良いと思う。38の今後5年間に取り組む施策ごとに指標は最低1つ以上あるべきだと思う。</p> <p>施策「3いじめ防止対策の推進」に関していえば、子どもたちの自立的ないじめ防止への対応策の視点もあってもよいと思う。指標に掲げた「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童・生徒の割合を向上させていくための取組が必要である。</p>
参加者	<p>指標について、全施策に指標が必要だと考える。</p> <p>そして、指標名の表現が子どもの態度や姿勢、行動を示すものになっていない。つまり、感じているだとかこんな人がいるという表現になってしまっている。現在は「〇〇ができる子どもを育成」ということを目標にすることが一般的である。</p> <p>「2豊かな心の育成」の指標は、「自分を大切に感じている児童・生徒の割合」ではなく「自分の良さを発表できる」などがよい。また、「相談できる大人が一人でもいる」ではなく「1年間のうちに自分の悩みを誰かに相談したことがある」など、子どもの実際の行動が測れるような指標であるべき。全国や他自治体との比較をし</p>

	<p>ていく場合には、独自の指標を設けることが難しいかもしれないが、今後、市がめざす子どもの姿として「〇〇ができる子ども」、「〇〇する子ども」というような動きがある表現にしてほしいと思う。</p> <p>「2豊かな心の育成」の指標「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」については、外国では「いじめを仲裁したことがあるか」と子どもたちにアンケートを取っている。いじめ問題は、見て見ぬ振りをすることや仲裁しないことが問題なので、仲裁した経験があるなど、いじめに立ち向かう子どもの姿を指標にしないといけないと思う。心の中で思っていることを指標にしているのは、いつまでたってもいじめに対して行動する姿が見えてこない。</p> <p>「5円滑で継続性・連続性のある教育の推進」の指標「学校が楽しいと回答した生徒の割合」も漠然としていて評価として意味がない。ルーブリック評価という段階的に評価基準を設けて「何ができたのか」と評価していく方法が一般的である。</p> <p>今後の市の施策が有効に機能しているかどうかを測るうえでは、子どもたちの姿が見える形にするとよい。</p> <p>また、指標案は基本的なベースの部分でしか評価していないため、最低限は達成されても、本当にいじめ問題が解決できたのかということが測れず、何の評価にもならない。指標名を子どもの姿が見えるように工夫をしたほうが良い。</p>
参加者	<p>「自分を大切にし、他者を思いやる心の育成」では、道徳教育といじめ防止対策が示されているが、差別的な態度を持つ子どもがいるので、人権尊重教育も重要である。</p>
参加者	<p>施策「11 教育の機会均等の確保」の「主な取組」について、「奨学金の支給」とあるが、7人に1人が相対的貧困であると聞く。特に、母親ひとりの家庭の場合などは、経済的に義務教育終了後の進学が問題となっている。現在の奨学金は、銀行のローンのような形が増えている。昔は奨学金を借りても、教員になれば返済せずとも良いというような制度もあった。本市の場合の奨学金制度の周知を徹底すれば、本市で子育てしたいと思う親世代が増えていくのではないかと。金額の増額も含めてお願いしたい。この制度によって将来の進路をあきらめなくて良い子どもが増えることを願う。</p>
事務局	<p>本市は給付型の制度で、月額1万円。成績優秀だと特別奨学金としてプラス3千円としている。</p>
座長	<p>時間も迫ってきたので、他に全体を通じて発言したいことはあるか。</p>
参加者	<p>事前に資料を送付していただいたが、量が多いので可能であれば、事前に紙ベースで送付してほしい。</p>
	<p><b>2 その他</b></p>
事務局	<p>今後10年間を通じてめざす教育の姿「1はちおうじっ子の『生きる力』の育成」の施策数は多く、時間も限られることから、発言できなかったことがあれば、意見書へ記入の上、7月31日までに郵送もしくはFAX、メールでも事務局へ送付していただければ結構である。</p>
	<p><b>3 閉会</b></p>
座長	<p>次回の会議の開催予定について事務局から説明願います。</p>

事務局	<p>次回は8月21日(水)、場所は市役所本庁舎8階805会議室。時間は午後7時から予定している。</p> <p>次回の会議では、今後10年間を通じてめざす教育の姿「2学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」部分にあたる施策について意見や助言をいただく。</p> <p>会議資料は、事前に電子メールにて送付する。</p>
座長	<p>本日はこれにて閉会とする。</p>